18p-A23-3

学生による科学コミュニケーション活動と地域連携

Science Communication and the Community Services by Students

東海大理　○四方　周輔
Tokai Univ.　○Shusuke Yomo
E-mail: yomo@tokai-u.jp

我々は東海大学の中でも札幌キャンパスの教育に携わっている。学生の育成を兼ねた科学啓発活動として次のような事を行ってきた。

(1) 科学の祭典札幌南大会の開催
(2) 札幌市内・道内の科学の祭典への参加
(3) 子ども会による「居場所つくり」で「サイエンスラボ札幌」を開催
(4) 児童会館の「わっしょい祭り」での科学教室を開催
(5) 西岡公園での科学教室を開催
(6) 応用物理学会「リフレッシュ理科教室」への参加
(7) 「サイエンスにチャレンジ・・・実験教室」を開催
(8) もいわ地区センターでの「夏休み寺子屋」,「もいわ自由学校」の運営と参加
(9) その他

このような活動の学生の主体は, 大学の科学部というクラブのメンバーである。彼らは実験が好きであるだけでなく, 子どもと接することが大好きな学生が多い。また理科教育法と理科教育法特論の学生は高校・中学の理科教員の資格を取ろうとしており, 理科教育での実験が重要視される状況からも, また子どもとじかに接する場, また親御さんと一緒の子どもとコミュニケーションをとる場に参加することで, 理科教員になるための体験的学習の場となっている。

一方, 理系基礎教育の科目である物理学実験では, 伝統的な与えられた内容の精密実験だけでなく, おもしろ実験コースを含め, そこでは自ら好みの実験を組み立て, 実験データを得る。このとき同じ班の学生との議論を成長させ問題の解決を図る。自分の頭で考え, 他人とのコミュニケーションを図りながら問題解決に当たるトレーニングとして, 初年次教育としての側面が実現している。

このような主体的・自主的な協働作業を通じた活動は社会に出たときに必要とされる能力のうち, 対人基礎力, 対自己基礎力, 対課題基礎力の養成に役立つと考えられ, キャリヤー教育としての側面を実現している。

このような科学コミュニケーション活動は広い範囲の, または狭い範囲の地域との協力があって実現でき, 大学だけでできる範囲は限られている。東海大学では, 札幌キャンパスとしては札幌市南区との連携があり, 科学コミュニケーション活動としては地域の地区センターと子ども会との連携が実現している。また, それぞれのイベントを実施するには, 札幌市および周辺の市町村の理系教員や高校・中学の科学部の協力が不可欠である。今後の計画として,「トコラボ」プロジェクト（TOkai university COmmunity linking LABOratory）が始まっており, その中で従来の科学コミュニケーション活動における連携を活かしていきたい。

© 2014 年　応用物理学会